5/12 文京区図書館分会講演集会に連携するアピール

2001 年 5 月 12 日

起案：「中野の図書館を守る連絡会」世話人一同

中野区図書館利用者および有志の図書館関係者によって構成する「中野の図書館を守る連絡会」は、『知る・学ぶ自由がある豊かな中野のくらし』を求める活動を行っています。

私たちは、中野区民へ同活動のアピールを継承する一方、次の観点から、文京区図書館分会、同じ目標をもつ「東京の図書館をもっとよくする会」、およびその他関係団体との共同・連携による＜公共図書館の役割再認識＞運動を拡大していく必要があると考えます。

一．深刻さを増す各区財政危機は、公共図書館資料費大幅減少に止まらず、さらに、中野区にみる地域図書館そのもの見直しと閉館（※後述）、文京区にみる図書館機能複合化による図書館サービスの実質低下など、施設機能そのものの縮小にまで及ぶ状況となっている。

一．これらは、地域行政関係者において、＜公共図書館とは地域社会形成に必須の機能であり、かつ市民のために守るべきサービス＞という公共図書館の基本理念についての認識欠如ないし希薄化によるものと考えられる。

一．このような公共図書館サービスの後退に反対していく必要があり、また、一部の進歩的な区を除き、他区への今後の波及も懸念されることから、関係団体が共同・連携して同運動を進めるべきと考える。

《参考》　中野区における関係者の動向（※は当会補足）

【区行政】　本年 3 月策定の「中野区行財政 5 か年計画」における図書館関連施策において、(1)視聴覚資料購入休止、(2)資料費の半減、(3)中央館関連（視聴覚ラウンジ廃止、ビデオ編集室廃止）、(4)図書館の適性配置・規模の検討（地域図書館の機能や規模について見直し）

※1 以上は、『図書館だより』（中野区立図書館報№23 2001 年 4 月）に中央館長名で掲載。残念ながら中野区では、図書館サービスの普及発展をになうべき職務の方が、専ら先頭に立ってサービス後退の旗振りをされているやに見受けられる。

※2 (3)の＜適性配置・規模の検討＞は、明言を避けているものの、複数の地域館閉館を意図していることが明らか。

※3 「5 か年計画」の立案段階において、区は「中野区への意見・要望」を募集。図書館サービス維持を希望する 200 通ものアンケートが寄せられたが、残念ながら反映されていない。

【中野区図書館運営協議会（学識者・利用者・図書館員で構成）】　遅まきながら年度末に来館者アンケート調査を実施。粗集計を『図書館だより』に掲載。

※1 利用登録者 10 万人とすると約 2%にあたる 2158 票回収は比率としては低いが、サンプル数としては有効。来館者の 88%が徒歩・自転車利用、アクセス時間 20 分未満が 87%となっており、身近な生活圏内の地域館利用が殆どであることが示された。中高年や主婦・児童層を考えるまでもなく、遠くの図書館(中央）を使えという発想には無理がある。

※2 同協議会によって、この調査結果がまとめられ、教育委員会へ提言予定。残念ながら、この協議会そのものも、今期（2001 年 10 月まで）をもって解散となる。

【中野の図書館を守る連絡会】　2000 年 10 月から活動を開始。図書館サービス後退の動きを把握している区民が多くはないとの判断から、図書館前でのビラまき、ホームページ（http://www.gene.ne.jp/~lagoon/nl/)による衆知、マスメディア働きかけ（2001 年 2 月 9 日 毎日新聞「図書館がリストラの対象？」記事）など情宣中。会推計では、現状でも図書館サービス空白地帯が区エリアの約 33%あり、例えば 3 地域館を廃止すると、約 60%のエリアの区民が図書館を利用できなくなる。現登録者数 10 万人のうち 3 万人以上の市民に影響を与える。　以上